今月の PICK UP

『孤塁　双葉郡消防士たちの３・１１』 吉田　千亜/著　岩波書店　369.3ヨ

本書109頁、5章扉の写真を見てほしい。雑然とした通路の床に、防護服を着たまま横たわる人影がいくつも見える。つかの間の休息を取る消防士たちだ。東日本大震災直後、双葉郡の消防士たちは人員や物資の補給を断たれ、仮眠さえ満足に取ることができなかった。

激甚災害が発生したら、全国から緊急の応援部隊が派遣されるはずだった。しかし、それは原発の爆発事故によって阻まれた。地震や津波被害者の救急・避難誘導、原発構内での給水や消火活動まで、たった125人の消防士たちは、不安や恐怖を抱えながら決死の思いで戦った。まるで特攻隊のようだった。あの未曽有の大災害から10年、彼らの苦難と葛藤を風化させてはならない。

司書のおすすめ

『美味しい櫻』 平出　眞/編著　旭屋出版　627.7ヒ

毎年、桜の開花で春の訪れを感じる方も多いのではないでしょうか。本書には、全国各地の桜のスイーツや料理、また名所や知識まで紹介されていて、まさに桜を満喫できる一冊です。全編にわたり写真が豊富で、特にスイーツのページは眺めているだけで心が躍ると思います。滋賀の和菓子と名所も紹介されているので、探してみてください。

『かならず先に好きになるどうぶつ。』 糸井　重里/著　ほぼ日　914.6イ

「ほぼ日刊イトイ新聞」にかかれたことばの中から選りすぐって年に一度出版される、「小さいことばシリーズ」の最新刊です。

糸井さんの言葉は短くても、日頃忘れがちな大切なことを気づかせてくれて、心にささり読後も余韻として残ります。また写真、絵、マンガ、イラストなどいろいろな挿絵の短いコメントも効いています。

大袈裟なエピソードがあるわけではありませんが、ちょっぴり疲れたな、と思う気持ちにおすすめのほっこりする本です。

『原田マハの印象派物語』 原田　マハ/著　新潮社　723ハ

目次に「愚かものたちのセブン・ストーリーズ」とあります。愚かものとは19世紀フランス印象派の画家（モネ、マネ、ドガ、ルノワール、カイユボット、セザンヌ、ゴッホ）。それぞれの物語に、名画と略歴を添え、読み進めるうちに「愚かもの」の謎が解けて来て、より興味深く作品が見えて来るアートの本です。

『バターの本』 グラフィック社編集部/編　グラフィック社　648.1グ

国内で生産されているバターがこんなにあるとは、と驚かされる一冊です。スーパーに並ぶ大企業のバターから小規模生産のバターまで約100種が紹介されており、それぞれに生産者おすすめの食べ方や、実際に全てを食べてみた感想が掲載されています。

小規模生産のバターは昔ながらの製法による場合が多く、職人の技や経験が生かされた個性のある味になるそうです。その味を想像し、また、バターを巡る旅を想像して楽しくなる本です。